

九大三景

六本松 箱崎 伊都

▷9◁

旧帝国大学の威厳と歴史を感じさせる九州大の旧工学部本館、赤レンガが印象的な事務局第一庁舎は箱崎キャン

系が移転を終えるのは11年後と見込まれる。九大は売却して移転事業の財源とするが、跡地利用の議論はまだ本

跡地利用検討委員会も08年2月、跡地利用の提案書を出した。盛りをしてほしい」と話す。箱崎、東箱崎、松島、

移転後「歴史と緑生かして」

ンパス内(福岡市東区箱崎)の南側にそびえる。周辺の工学系施設の多くは閉鎖され、静寂感が漂う。

格化していない。そんな中、周辺住民は移転後に残る約45分の広大な土地に関心の目を注ぎ始めた。

建造物の活用と緑あふれる公園整備は共通の願いだ。工学系の敷地には、今年度の都市景観賞

に選ばれた旧工学部本館や事務局第一庁舎など大正昭和初期の建築物が目立つ。立派な巨木もある。

箱崎キャンパスの移転は段階的に進んでいる。07年度までに教職員を含め工学系の約5200人が伊都キャンパス(同西区)に移転。その後、理学系、法文系と続き、最後の農学

住民らでつくる箱崎校区まちづくり協議会は06年3月、市と九大に対し、跡地のまちづくり計画の実現に向けた要望書を提出。東箱崎校区九州大学

館や事務局第一庁舎など大正昭和初期の建築物が目立つ。立派な巨木もある。

東箱崎校区自治会連合会長の山内啓徳さん「キャンパス全

体がうちの校区だが、校区の人はほとんど知らなかった。移転計画が出されて大事な場所だという認識が出てきた。歴史遺産を活用し後世の人が『良いことをしてくれた』と言えるような街作りをしてほしい」と話す。

管松の4校区の住民は08年6月、「地元がまとまって行動し意見を出そう」と「九大跡地利用4校区協議会」を発足。アンケートや会合を重ね、跡地利用に向けた地元意見のとりまとめに動き出した。1月中旬にはメンバーが大学で施設や樹木の様子を視察する。

真っさらなキャンパス



箱崎キャンパスの事務局第1庁舎。大学移転後、これらの歴史的建造物の行く末はどうか

【早田利信】